

平成25年8月27日

「第5回地域のボランティアコーディネーター講座」報告書

- 1 事業名：市民参画課地域自治の仕組みづくり委託業務
「第5回地域のボランティアコーディネーター講座
基調講演「自治会とともに…すみつづけたいまち」
- 2 参加者：38人（内訳 自治会14人 NPO13人 企業2人 市議会2人
行政3人 事務局4人）
- 3 実施日：平成25年8月26日（月）13時30分～16時
- 4 担当：橋野
- 5 内容について
 - (1) 目的：芦屋の自助、公助、共助に必要なコーディネーター、ファシリテーターを育成する。今年度初の講座は、自治連を中心にNPOがつながる仕組みを理解していただく。
 - (2) 検証：芦屋市自治会連合会会長の具体的な講演と、市の仕組みづくりへの理想を受けて、賛否両論、話し合いが行えた。
 - (3) 参加者感想：別紙参照
 - (4) グループ討論：別紙参照
 - (5) 今後の対応：ボランティアとは、コーディネーターとは、ボランティアコーディネーターとは、芦屋市におけるボランティアコーディネーターの役割とは、昨年度だけでは浸透できていない部分を理解いただくためにも、継続で来ていただけるよう工夫していきたい。特に日ごろの疑問を吐き出し、話し合える場として定着できればと考える。

以上

参加者感想

1 基調講演について

- ・自治会長は、人の話をしっかり聞くこと、こまめに動くことが大事という話、肝に命じました。
- ・まちづくり懇談会の動き及び自治会連合会の三役会についてわかった。NPOの動きと自治会の動きについてもっと関係を深めよう。
- ・自治会やNPOの方のお話が聞けて参考になりました。自治会連合会堀会長の基調講演は具体的でわかりやすかったです。

2 「自治と協働のひろばづくり」について

- ・自治会が担い手不足という課題を抱えており、NPOとの協働のなかに課題解決の糸口を見つけていく、そのきっかけとして本講座があるとの事業説明は良く理解できました。簡単に目標達成できるわけではありませんので、今後継続していくこと、その内容は過去の講座の内容を踏まえたものであること、参加者には継続参加を強く勧める事、一定回数以上の参加者には「あしや地域コーディネーター」などの称号（ある種の資格）を与えること、市の行事にそのような称号者を活用することなど一案ですが、いかがでしょうか？
- ・宝塚、豊中、明石など他市では「まちづくり協議会」方式をとっていますが、芦屋市では「ひろば」を考えているようです。「ひろば」では議論しっぱなし、責任の所在が不明確等の欠点もあるかと思いますが、「ひろば」方式を指向する根拠など、あらためて別の機会に伺えればと思います。
- ・活動センターに出入りできるようになり一段と視野が広がり、それに比べると今日のボランティアにかかわる自治会とのことは、自治会がうまくいっている若葉町7番の暮らし、これを無理にNPOとかくっつけず、まず身の回りからと思う。参考にはなった。

4 「みんなで語ろう」について

- ・自治会について日ごろの不満、疑問を吐き出させてよかった。ボランティアコーディネーターをしている方々はたくさんいるということがよりわかって嬉しかった。
- ・地域でのボランティアコーディネーターをどう発掘し育てていくかで悩んでいます。次回はその方法を教えて下さい。
- ・「みんなで語ろう」の時間がよかった。こういった機会がもっとあるといい。
- ・大原町自治会長より「自治会として主体的には動いていないが、何も問題はない。福祉の問題などは、協力はするが、基本的には専門組織に任せておけばよい。」との発言ありました。地域によって、自治会によって、それぞれ事情は異なると考えます。大原町は成熟した昔ながらの町です。わが奥池南町はかつてのニュータウンで、阪急バス路線延長、消防署誘致、集会所誘致は自治会主体でやってきました。こんごも自治会中心で防犯防災、道路交通問題、まちづくりに取り組んでいく所存です。リーダー、コーディネーターが必要です。養成講座が必要です。他自治会の情報が必要です。行政との協働が必要です。

その他

- ・時間も内容もほどよいかんじだったと思います。
- ・自治会のニーズがあれば団体としていつでも協力できる。
- ・ブロックの自治会長、町内会長に本日の参加を呼びかけましたが、出席できず申し

訳ありませんでした。今日の話し合いを今後を活かしていきたいと思います。

・行政へのお願い

①シチズン教育をしてほしい

日本は世間で生きている文化、今市民と行政が協働でなにかするには社会と個人の概念がいる。住民はいても市民がない状況なので、市民（シチズン）教育が必要と説明しました。

②すでに他市ではされていますが、行政が空き家を借りてほしい

私は高齢者関係の仕事（老人ホームの設計とマーケティング・立ち上げプロジェクト）をしてきました。介護付きの老人ホーム入居の多くの高齢者が家にモノをおいたまま、家族に入れられる状況を見てきました。それで上記のような方の空き家を市が借り入れ、活動したい団体に月貸し、週貸し、日貸しをする（高齢者のモノは2階に上げ、一階部分の活用）

メリット：

家主は収入を介護費、固定資産税などに使う事ができる（家も傷まない）活動したい団体の拠点ができ、地域の問題解決の場となる

ボランティアコーディネーターの活動の場になる

発展:活動の内容にもよるが、定年退職者のCBの場になればよいと思っています。

シチズンハウス（仮名）として、各所のシチズンハウスで同じような活動をしている団体を横のネットし、学び合えば、よりよい効果がでる名ばかりの自治会にもよい影響（参加を促すなど）を与える。学生も巻き込むと「若い力」が場を明るくし、みんなを元気にする。

